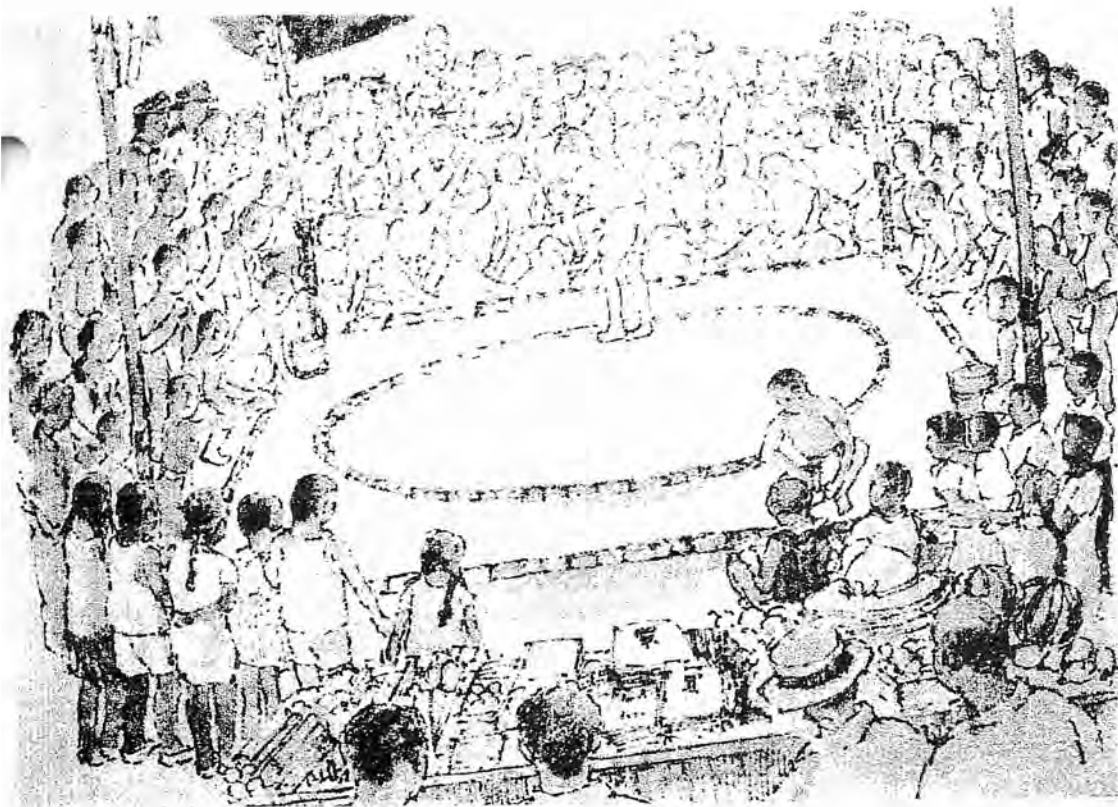
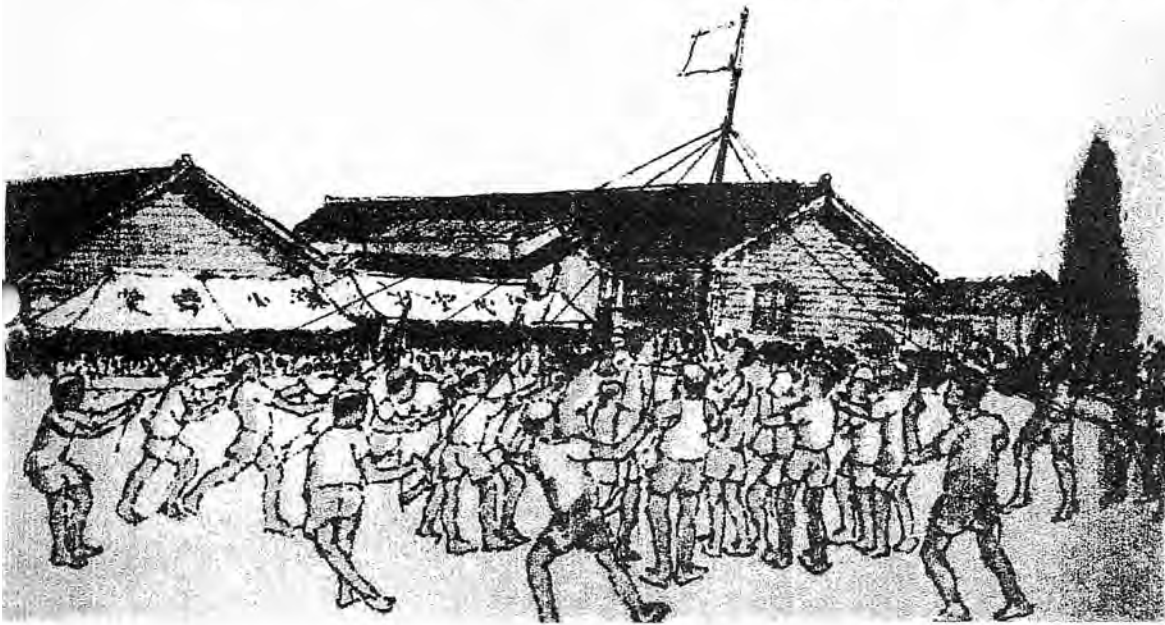


福嶋の子供たち(運動会・相撲大会)

大正末生まれの私たちは
年の節目毎は戦争であった。
昭和六年から「のらくろ」の
漫画が、二等卒で始まり、
年を重ねるにつれて階級が
上がって行った、時代である。
従って、運動会は勇ましく、
敵味方(紅白)に分かれての
点取り競争は当然の競技で
あった。

下の絵は、浜校運動会の
ハイライトである旗倒し
競技で、それはそれは子供
の血を沸かせた競技で、
相手の旗をどちらが先に
倒すかを競った、勇壮な
ものであった。
「ガキ大将」がその腕前を
示すのに持つて来いの競技
で作戦が大事であった。



子供相撲は日吉神社の、現在「神輿蔵」になっている場所が、相撲場で
青年団主催の「子供相撲大会」と銘うって盛大であった。
青竹の「大関」「関脇」「小結」の賞が、四本柱に飾ってあった。